

私たちは日々の生活の中でさまざまな戦いがあると思います。その一つ一つに勝利していくためには立ち向かっていくしかありません。しかし私たちは立ち向かう方法を知らなければ戦うことができません。ですから私たちはその方法を神に聴いていくしかないのです。神さまに求めることすなわち神に飢え渇くことが大事なのです。今は恵まれた中に生活しているので神に飢え渇き、求める心が薄れているように感じます。飢え渇きが薄い代わりに「文句」が多くなってきていると思います。この「文句」は神の前で悪いことであると分かっているので、「文句」でなく「言い訳」が口から出てくるようになってきます。この「言い訳」も悪いことだと理解すると、後は「開き直る」のです。この3つの「文句・言い訳・開き直り」が問題に立ち向かい、神の恵みを受け取れない原因になっています。私たちは敵である悪魔に神の恵みを奪い取られないようにしなければいけません。私たちは正しいことを聞いても反発し間違った選択をするように巧妙に仕掛けられます。自分の良き理解者であるかのごとくすり寄ってきます。このような事を繰り返していくと、周りからの話しは聞きたくなくなってきます。またそれを続けていくと反対に周りの人は私のことを理解してくれないと思うようになってきます。そして耳で聞くよりも目で入ってくる情報に頼るようになり、ますます周りの人からの聞く力が弱くなってきているのです。でも自分の心にある悪い言葉は良く聞き従っています。悪魔は私たちを騙そうとしていつも語りかけてくるのです。私たちがいららして感情的になる時というのは過去にある問題や事件を思い出させ「文句・言い訳・開き直り」が出てきているのです。それが現代では人と会話することができない状況に陥っているのです。それが神と人との会話にも影響を与えているとしたら…如何でしょうか。神さまが語りかけていることに対してとんちんかんな答えをしていることはないでしょうか。これを繰り返していると関係が壊れていくのは明白です。心に語りかけてくる悪い声には敏感で、神さまが語りかけていることは鈍感になってくることほど危いことはありません。神さまとの会話が一方通行になっていないでしょうか。私たちからの願いは伝わるけど、神さまからの答えは聞けていないことはないでしょうか。私たちの問題点は①人の話しが聞けないこと②人の話しを受け止めないということです。それは神さまからの大事な言葉すら聞けない、理解できないようになってしまっています。敵である悪魔は神さまの正しい言葉を聞けない、理解できなくするために語りかけてくるのです。私たちは自分が「聞き手」であると思っている人ほど、人の話しを理解していません。私たちは自分の話しを聞いてほしい、自分のことを分かってほしい人ばかりです。神さまは私たちに語りかけています。「しっかり聴いていますか？」と。ですから自分のことを理解してもらうためには聞くしかありません。私たちの目的はこの世の成功ではなく、天へ凱旋する時「あれもできなかった…」と後悔せず、「良かった」と言える人生となるためにも聞くことが大切なのです。パウロも生きるのも死ぬのもキリストであると言っていますが、自分の果たすべきことを完成させて召されていきました。イエスキリストも同様に十字架上で「完了した」と言われました。私たちの人生も同じように自分の果たすべきことを完了する人生となっていきましょう。私たちは充実感を得られる時というのは周りの人から「ありがとう」と言われた時ではないでしょうか。周りから必要とされている時がうれしいのです。パウロは自分を通して周りが幸せになることが自分の喜びであることを知ったため、今は天に召されるよりも地上での働きにまい進したいと思ったのです。(ローマ10：13～18) 私たちは神さまと会話しているのですか。それともしゃべっているのでしょうか。会話とは相手の話していることも聞き、双方向となりますが、しゃべっているとは一方通行です。私たちは神さまにどのように祈っているのか確認してみましょう。そして聖書では信仰とは聞くことが始まり、聞くとはキリストについての御言葉によるのであると書かれています。ですから私たちは神さまから語られる言葉を聞かないと成長できません。イエスキリストも荒野での40日を過ごしている中で、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。(マタイ4:4)」と書いています。このように私たちの力は神のことばであるといわれています。神さまから聞くようになるには練習がいると思います。神さまは語りたいことについては必要に応じて人や周りにあるものを通して語りかけているのです。しかし私たちにとって馴染みがあり、私たちにとって都合のよい声を聞いてしまいがちです。しかし神さまに聞いて従うとそれが現実となって素晴らしいことを見ることになるので信仰が増し加わるのです。反対に聞かない人はいくら祈ったとしても成長しません。そして私たちは問題に立ち向かい、神さまに聞き従い勝利をした時に喜びが湧き出てくるのです。私たちは日々聞きながら歩いていかなくてはなりません。神さまは私たちと話しがしたいのです。一方通行のおしゃべりから会話にしていきましょう。①いつも聴いていますか？いつも聴くのです。昨日聴いた…というものではありません。(箴言8：32～36) 私たちは自分の家の戸口にしっかりと立っていますでしょうか。私の家は私のものと勘違いをしていると誰でも入れてしまいます。しかしこの私とは神であり、私の家ではなく、神の家であれば入っていいのは唯一人の方のみです。私たちの戸口とは情報が入ってくる耳や目などです。神さまが何をさせ、何を語っているのでしょうか。とかく私たちは神さまのいうことには従えません。それは私たちにとってはしたくない事のように感じさせるほど簡単なことであったり、小さいことであったり、時には「えっ～」と思えるようなこともあります。そこで私たちは素直に行うことができるのか、できないのか戦っています。敵である悪魔は目線をそらすために人の心理を利用して難しいことをさせようと働きかけてきます。神さまは簡単なことをしなさいと言っているのです。「隣人を愛する」「悪かったことを認めてごめんなさいを言う」ことなどとてもシンプルです。シンプルなことほど、プライドが邪魔をして素直に行うことができないのです。(箴言19：27) 聴かないと迷うのです。多くの人は迷っています。その迷っている人を導かなくてはなりません。私たちは羊飼いの声を知っています。その声は周りから聞こえてくるのではなく、心の中から聞こえてきます。②聴いて進む。聖書には進む時に妨害とチャレンジあることが分かります。そこで信仰が試され、信じて前へ進むと祝福を受けてきました。私たちもそのような時に逃げずに立ち向かうことが成功するかしないかを分けます。では何に立ち向かうのか。それは自分の内側にある問題点をしっかりと見て乗り越えることができるのかということです。私たちにとって大事な部分というのは多くはありません。しかし悪魔はこっそり喜び寄り大事な部分をすり変えていってしまいます。私たちは騙されている中で大事な部分が奪われていっています。(1テモテ4：12～16) 自分の周りの人に正しいことを伝えても自分がそれを実行していなければ、意味がありません。私たちは他人に厳しく、自分に甘くなっているのでしょうか。私たちを通して多くの人を救いに導くためには自分がやり続けなければ成し遂げることはできません。自分を従わせていると他人から言われることが少なくなってきます。そして③聴いたことを伝える。私たちは聴いたことを自分だけで終わらせてはいけません。(ローマ10：13～18) 今日は聴きなさいと語っていますが、聴くためには伝える人が必要であり、私たちが伝える人でもあるのです。言っても聴かない人がたくさんいます。聴けない原因は様々ありますが、時が経つと受け入れられるようになります。私たちは聴いたことに正しく応え、それを実践する。そして実践していることを証ししていきましょう。私たちは聴いただけはいけなからです。聴いたことを周りにいる迷っている人に伝え、その人を正しい方向へ導く必要があるからです。ですから私たち自身が正しいこと聴き続け、従い続けていく必要があります。そうすれば自分も周りも幸せになり充実した信仰生活を送ることができます。聴いて実践していきましょう。(要約者：平澤 一浩)